

小学校と中学校をつなぐ架け橋



心豊かでたくましい児童生徒を育む小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば vol.22

中学校入学前 ガイダンスを開催

小学校生活が終了し、中学校へ進学することは、多くの人にとって当たり前に感じますが、この2つの学校間には大きな環境の変化があります。

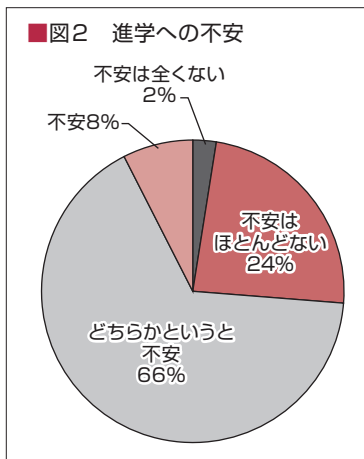
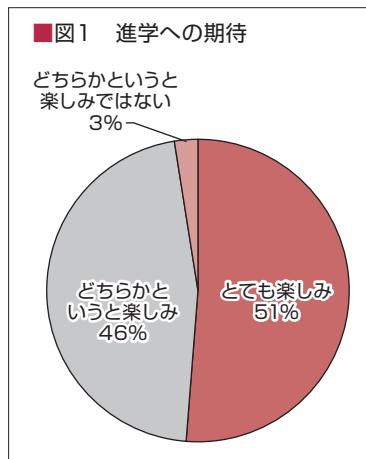
全国の調査によると、中学校進学後に「勉強する気が起こらない、学校をサボりたい」といった心境の変化をきたす子どもの割合が増加します。

その大きな要因と考えられているのが、中学校進学という環境の変化に適應できない「中1ギャップ」です。町では、この「中1ギャップ」解消を一つのねらいとして小中一貫教育を進めています。

1月9日、中学校進学を控えた小学6年生（80名）を対象に、「よりよい中学校生活の土台となる生活習慣」「正しい中学生の勉強方法」の2つの講話を入学前ガイダンスで行いました。

進学への期待と不安

ガイダンス開始前、子どもたちに進学への期待と不安に関するアン



ケートをとりました。

図1・2のとおり、ほぼ全ての子が「進学が楽しみである」と回答しましたが、同時に全体の3/4の子が不安を抱えているとわかりました。楽しみにしていることは多い順に

「友だちや先生など違う環境での生活」「新しい学習内容や教科担任制などの勉強に関すること」「部活動」「体育祭や文化祭などの行事」となりました。

不安に感じることは多い順に、「新

しい学習内容や定期テストなどの勉強に関すること」「先輩との人間関係」「友達や先生など違う環境での生活」「部活動」「体育祭や文化祭などの行事」となり、特に「勉強に関すること」が不安だと感じていることが多いようです。

この不安を解消するため、次のテーマで講話を行いました。

正しい中学生の勉強法

講師の清水章弘さんが、中学校での勉強方法や授業の受け方、学習計画の立て方について助言しました。

◆勉強の定義と要素

勉強とは「できない」を「できる」にすることであり、その4つの要素は予習↓授業↓復習↓テスト（↓次の予習）。勉強のできる子ほど、この4つの要素がつながっていて、先のこと意識しながら勉強している。

◆予習のしかた

ポイントは「わかる」と「わからない」ものに分けること。予習で「わからなかった」ことを授業で「わかる」ようにすることを意識する。

◆授業の受け方

授業を有効活用するためのカギは

「ノートの使い方」にある。板書を丸写しするだけでなく、先生の発言や気付いたことを、とにかくメモする。ノートの左側は板書、右側はメモくらいの心構えで授業を受けてほしい。

たくさんのメモがあれば、授業内容を思い出しやすい。また、見返したときに復習しやすいノートにすることが重要。

◆復習のしかた

復習は勉強した内容を忘れないためにするもの。3回が目安で、授業を受けたその日、まだ記憶の新しい次の日、週末などの時間がとれるときに行う。合い言葉は「その日、次の日、日曜日」。

◆テスト（計画の立て方）

中間・期末テストは2週間前から計画を立てて勉強してほしい。大切なのは、「この教科で何点をとる」など目標を決めること。次に目標を達成するために「やるべきこと」を全て書き出し、時間配分を決めて実行する。そして、計画と実際の行動を比べて振り返り、さらなる習慣の向上につなげてほしい。

講話終了後、子どもたちから質問攻めにあった清水さん。「社会の年

表の覚え方はどうしたらよいですか」という足沢朱音さん（斗川小学校）の質問に対し、「『江戸幕府が開かれたのは何年か』と聞くのが小学校の出題パターンだが、中学校では『一六〇三年に何があったか』という聞き方をするので、時代の移り変わりとその背景も勉強しながら、別な聞き方をされても答えられるようにすることが大切です」と答えました。

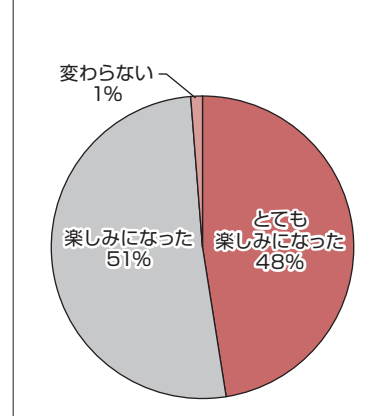
ガイダンスを受けた子どもたちの変容

受講後に変容をみるための質問をしたところ、図3・4のとおりほぼ全ての子が、進学が（より）楽しみになり、不安が減ったと回答しました。

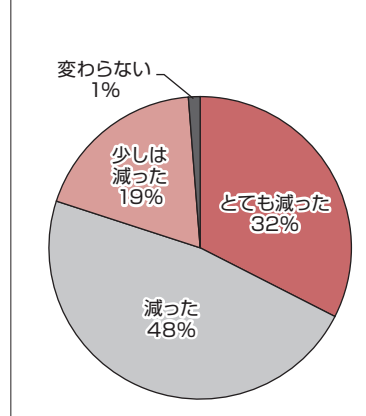
また、全ての参加者が講話の内容を理解できたと回答し、正しい学習サイクルで次のことを考えながら勉強することや、学習計画の手順を守ることなど、思い思いの誓いを記入しました。

子どもたちにとって、1番の不安要素であった「中学生の勉強方法」を具体的に知ることができ、まだ経験したことのない定期テストへの対策を学んだことで、不安の減少につながったようです。

■図3 期待は増したか



■図4 不安は減ったか



保護者の反応

このガイダンスは今年で3回目となりましたが、今回は15名の保護者にも参加いただきました。

「子の思う勉強と親の思う勉強の仕方の違いに気づかされました。家に帰ったら3学期からノートの取り方や今後の予習復習の仕方を子どもと話し合いたい。これからは『できる』ようにすることを意識して勉強

させたいと思います。」など多くの感想をいただきました。

子どもだけでなく、保護者も講話の内容を共有することでよりよい中学校生活へのサポートが可能になり、「中一ギャップ」の解消がより効果的に行われると期待しています。

講師の紹介

株式会社プラスティー教育研究所
代表取締役 清水章弘

1987年千葉県船橋市生まれ。東京大学大学院教育学研究科在籍。自身の時間の使い方や、勉強のやり方をまとめ、教育系ベンチャー企業(株)プラスティーを20歳で立ち上げる。60名のスタッフをかかえ、小中高生を対象に「学習の習慣化」を軸とした指導を行っている。

著書

- ・『習慣を変えると頭が良くなる』東大生が教える7つの学習習慣（高陵社書店、2009）
- ・『勉強がキライなあなたへ』学びを楽しむ22のレッスン（高陵社書店、2011）
- ・『自分でも驚くほど成績が上がる勉強法』（実務教育出版2012）